

【四日市市教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

これからの予測困難な時代を生き、「夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども」を育てるため、「情報活用能力」を基盤として、生涯にわたって自ら学び続け、他者と協働して未知の課題を解決できる基本的な資質・能力を育てていく。(四日市市GIGAスクール構想より)

また、令和の新時代を生きる子どもたちの未来を見据え、1人1台学習者用タブレット端末と小中学校の高速大容量のインターネット環境を一体的に整備し、ICTとこれまでの教育で培った教育をベストミックスさせることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践により、子どもたちに必要な力を育てていく。(第4次四日市市学校教育ビジョンより)

2. GIGA第1期の総括

本市では令和3年度当初から1人1台タブレット端末の環境を整えてICTを活用した授業を実施してきた。また、学習系インターネット通信の10GB化・普通教室等の無線環境の整備を行ったり、授業を行う教室へのプロジェクタ等の周辺機器の整備を行ったりすることで、児童生徒や授業者が1人1台タブレット端末を手軽に利用する環境を整えることに成功した。

児童生徒が主体的に学べるよう、小・中学校の各教科の教材やプログラミング・タイピング練習・進路情報・児童生徒の作品集など多岐にわたる情報が掲載されている四日市市独自の学習ポータルサイト「こにゅうどうくん学びの部屋」を開設した。

これらICT環境の整備に加え、ICT活用実践推進校として小学校3校、中学校2校を指定し、授業でのICTの活用について研究および授業公開を行い、外部講師による助言及び講演会を行った。さらには教員研修の充実や、各校の情報化を推進する教員のための情報化推進リーダー養成講座を新たに設けたりGIGAスクールアドバイザーによる各校訪問を行うことにより、授業力の向上や学校の校務DXを進められた。

その反面、授業におけるICT活用や校務DXの推進状況について、教員間や学校間での取組の差が残っている。

第2期に向けての端末選定や各種導入システムの検討会に、現場の教員や管理職だけでなく、事務職・保護者代表・市のデジタル推進担当課・教育委員会各課の代表が関わる仕組みを作っている。当事者として参加してもらうことにより、より一層のICT活用や校務DXの推進に繋げたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市では各校における情報活用能力の育成やICTを活用した授業の充実及び校務の情報化の推進を図るため、校内組織にICTコーディネーターを位置付けている。

また、1人1台端末を活用した各学校の学習活動の充実と児童生徒の情報活用能力の育成

を目指し、学校全体の ICT 活用を推進できる人材を養成するために令和 3 年から情報化推進リーダー養成講座を行い、例年 3 分の 1 を超える学校からの申込がある。

これら ICT コーディネーターや情報化推進リーダーを中心として、1 人 1 台端末の利活用のために次の 3 つの視点で取り組む（第 4 次四日市市学校教育ビジョンより）。

（1）すぐにでもどの教科でも文房具のように使えることを実感する

1 人 1 台端末や ICT 機器を用途に応じて適切に使うための能力を身につける段階ではインターネットを活用した調べ学習・文章、プレゼンテーション資料の作成・AI ドリルなどを活用した個別学習・毎朝の健康チェック・録画機能を活用した自主学習を中心に取り組む。

（2）学びを深める授業をとおして、資質・能力を確かにする

1 人 1 台端末や ICT 機器の能力や特徴を活かした授業づくりを通じて、教育・学習効果を高める段階では、個別学習では思考ツールによる考えの整理や分析、授業の振り返りや復習問題に取り組んだり、協働学習では 1 人 1 台端末を活用した意見交流・発表や他校との遠隔授業による学習を行ったりする。

（3）各教科の学びをつなぎ、一人一人の夢や志の実現に生かす

1 人 1 台端末や ICT 機器を主体的に活用して、教科の学びを人生の充実や SDGs の視点を生かして社会課題の解決に応用できる段階では、オンライン社会見学、オンライン職場体験・英語による地域への情報発信・防災アプリを活用した学習・国際交流や他地域との交流等を行う。

さらには日本語指導が必要な児童生徒や学校教育になじめない児童生徒等に対する学びの保障を確保するという観点においても、1 人 1 台端末で翻訳アプリの利用やオンラインでの授業へ参加できる環境を整えることで、障壁となっている課題を取り除きたい。